



第41回 日本神経科学大会

2018年7月26～29日 @神戸コンベンションセンター

産学連携モニター募集(無料)

※参加条件あり

応用脳科学コンソーシアムでは、日本神経科学学会様との共催にて、大会1日目の7月26日(木) 17時より「産学連携シンポジウム」を開催いたします。本シンポジウムでは、「人工知能と脳科学の共進化が創る未来」をテーマに、「生物の脳神経系」と「機械のアルゴリズム」を横断しながら基礎研究や事業開発を行っている研究者・企業の立場から、研究・社会における現状と展望を議論いたします。そこで、より多くの産業界の皆様にご参加頂きたく、大会主催である日本神経科学学会様のご協力いただき、**通常25,000円(非会員:当日参加)の大会参加費が無料**となる「産学連携モニター」を募集しますので、希望される方はモニター参加条件と留意点をご了承頂きましたのち、モニター参加申込みをお願いします。また、産学連携シンポジウム同日11:50～は、「ランチョンセミナー ※詳細は裏面」も開催いたしますので、こちらもあわせてご参加ください。皆様のご参加を、事務局一同心よりお待ちしております。

モニター参加条件・申込方法は裏面へ 締切：7/19 (木)

大会1日目「産学連携DAY」『産学連携シンポジウム』

人工知能と脳科学の共進化が創る未来

日時:7月26日(木)17:00～19:00

会場:第3会場 (神戸国際会議場3Fレセプションルーム)

人間の知的能力をコンピューター上で実現するために、脳の情報処理様式を取り入れながら進歩を遂げてきたAI(人工知能)は、生物の脳の記憶容量や処理速度の限界を上回る性能を備えることにより、人間の脳機能を外挿することが可能になり、社会に大きなインパクトを与えている。AIはその必然として脳神経科学との親和性が高く、現在世界中でAI研究と神経科学研究を結びつける産学官連携のビッグプロジェクトが推進されている。今後さらに社会的有用性の高いAIを構築するにあたっては、従来人間の脳に固有と考えられてきた「直感的理解」や「創造性」といった機能をどのように実装していくかが鍵を握っており、脳の計算原理についてのより深い理解が求められる。このようにAI研究開発は、脳神経科学領域における産学連携の大きな柱になることが期待される。

本シンポジウムでは「生物の脳神経系」と「機械のアルゴリズム」を横断しながら基礎研究や事業開発を行っている当事者の立場から、研究・社会における現状と展望を議論します。

座長
司会

本田 学 先生 国立研究開発法人 国立精神・神経医療研究センター神経研究所 疾病研究第七部 部長

「神経科学と人工知能のこれまでとこれから(仮)」

川人 光男 先生 国際電気通信基礎技術研究所 脳情報通信総合研究所 所長

「高度な認知機能のコンピュータによる再現(仮)」

谷口 忠大 先生 立命館大学 情報理工学部 教授

「産業界におけるAIへの期待と実際①(仮)」

佐藤 聡 氏 connectome.design株式会社 代表取締役社長

「産業界におけるAIへの期待と実際②(仮)」

岡田 陽介 氏 株式会社ABEJA 代表取締役社長

「神経科学とAIの融合領域の産業上のインパクト(仮)」

茨木 拓也 氏 株式会社NTTデータ経営研究所 情報未来イノベーションセンター
ニューロイノベーションユニット マネージャー

(パネルディスカッション)

全登壇者 モデレーター：**本田 学** 先生

講演
予定

●「産学連携モニター」の参加条件とご留意点

1. 7/26（木）の『産学連携シンポジウム』と、**その他全日程のプログラムに無料**でご参加頂けます。
2. モニター対象者は、CANメルマガを購読し、脳科学の産業応用に関心があり企業に所属の方。
（CANメルマガ未登録の方は、自動登録となります）
3. 『産学連携シンポジウム』の出席と、事後WEBアンケート回答送付が**必須**となります。
4. 『産学連携シンポジウム』を欠席の場合、他の大会プログラムには参加できません。
5. 事前申込みの無い方は、当日会場へお越しいただいても入場できません。
6. 懇親会<7/27(金) 19:30~21:30（予定）>は**有料**となります。

参加申込ページ <http://www.keieiken.co.jp/can/41th-monitor/>



※応募者多数の場合は、申込締切日以降抽選により参加者を決定いたします。
※応募総数が50名を超えましたら、締切日前に申込の受付を終了いたします。

ランチョンセミナー

『産学連携シンポジウム』同日・同会場にて： NTTデータ経営研究所共催

ニューロモジュレーション/ニューロフィードバック技術と 産業応用の最前線

日時 7月26日(木)
11:50~12:50

会場 第3会場
(神戸国際会議場 3Fレセプションルーム)

脳そのものに働きかけて活動脳を変化させることで人の心理や行動を変える「ニューロモジュレーション技術」。脳活動により生じる脳波データを本人の五感を介してリアルタイムにフィードバックすることで脳活動を変化させる「ニューロフィードバック技術」。これらの非侵襲的に神経活動を調整する手法は精神疾患などの治療や、音楽やスポーツなどのパフォーマンス向上トレーニング手法として注目されている。それらの市場規模は、いずれも現状の推計額約37億ドルから2025年には約60億ドルに達すると予測されており、この流れに乗って、欧米やアジア太平洋地域を中心にスタートアップ企業の設立や大企業の参入が相次いでいる。

本ランチョンセミナーでは、上記技術の実用化に向けた研究をされている研究者および事業化を進める企業にご登壇頂き、研究の最前線とその社会実装の現状・展望について議論します。

座長

岡澤 均 先生

第41回日本神経科学大会 大会長
東京医科歯科大学 難治疾患研究所 神経病理学分野 教授

演者

成瀬 康 先生

情報通信研究機構 脳情報通信融合研究センター 脳情報工学研究室 室長

茂木 淳夫 氏

株式会社JSOL 執行役員 ITコンサルティング事業部長兼ソリューション&テクノロジー部 シニアマネジャー

天野 薫 先生

情報通信研究機構 脳情報通信融合研究センター 主任研究員

司会

山崎 崇裕

株式会社NTTデータ経営研究所 情報未来イノベーションセンター
ニューロイノベーションユニット シニアコンサルタント